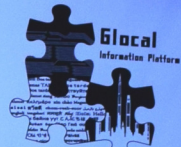


# 情報学が拓く地域研究

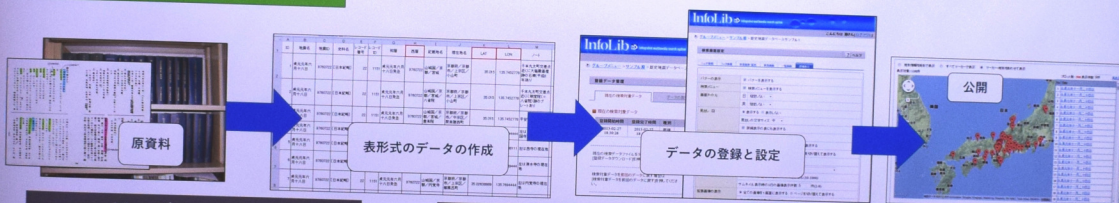
— 世界を情報のレンズで俯瞰・理解する —

京都大学 東南アジア地域研究研究所 グローカル情報ネットワーク



京都大学東南アジア地域研究研究所は、各地域のフィールドワークを行う研究者を擁し地域社会の統合的理解に取り組んできました。また、各研究者の収集してきた地域資料をデータベース化し、ウェブ上で共有する取り組みも行ってきました。ここではデータベース作成と統合の基盤システムと、その応用例を紹介します。

## データベース作成と統合の基盤

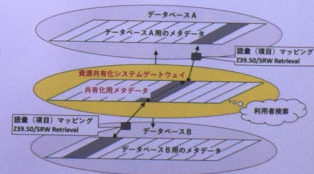


### My データベース

- データベースの構築・公開支援機能を補助
  - データベース構築は簡単ではない ⇒ 必要不可欠な機能 (操作) に限定
  - データベース操作は面倒 ⇒ WebページのGUIによる直感的な操作
  - メタデータ (表など) とコンテンツ (写真など) があれば、簡単なクリック操作だけでデータベースの構築から公開までを支援するツール
  - そのため機能は限定的であり凝ったことはできない
  - APIの提供、利用者によるアプリケーションの構築
- メタデータの定義・修正が容易
  - 作業に制限がない
  - 既述形式はCSV, TSV, XMLの3種類
- アプリケーションの構築・修正・拡張が低コストで容易
  - 検索やデータ出力のAPIを提供

### 資源共有化システム

- データベース数は増えたが効率的な検索は困難
  - ⇒ 共有化の必要性
- 共有化の阻害要因
  - 研究データベースのメタデータは構築時期・研究領域・目的・メディアなどにより異なる (Heterogeneous)
- 資源共有化システムはデータベースをシームレスに共有化する
  - 各データベースのメタデータの相違を認識しない ⇒ 標準メタデータ
  - データベースの検索法の相違を認識しない ⇒ 標準検索
  - メタデータの所在を認識しない ⇒ 資源共有化ゲートウェイの設置
  - 多言語検索機能 ⇒ 言語アダプタの応用
- 資源共有化の適用
  - 異なるデータベースの共有 (MLA連携等)
  - 分散所蔵されているコレクションの仮想的な共有 (地図コレクション等)



## 情報のレンズで見た地域資料

一研究者の蔵書を、目録にあるタイトルや件名から抽出したキーワードの連鎖の中に位置づけることで、一般的なキーワード検索とは異なる、俯瞰的な検索を可能に。

日本とアメリカの研究者が別々に所蔵している絵葉書データに対し、My データベース上で一元的な検索を提供し、それを元に時系列や写真の場所で絵葉書のデータを整理して見せるインタフェースを提供。

一方で、研究者の棚を再現したようなブラウジングも可能にできる。My データベースのAPIを用いて実現されている。

トピック分析でフィールドノートやその中に出てくる言葉の裏にあるトピックを推定し、似たフィールドノートの検索やそれぞれの用語の多義的な言及を把握するインタフェース (高田 et al. 「位置情報とトピックモデルに基づくフィールドノートのビジュアルライズ手法」(2014) )

